

戦争関係ポスターを活用した平和学習

土浦日本大学高等学校 栗林 幸雄

1. 実施学年及び教科・領域

高等学校2年生 地歴公民科 世界史A 1クラス(32名)

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 世界戦争と平和

第一学習社『改訂版 世界史A』第3編地球社会と日本 第3章世界戦争と平和

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は、高等学校学習指導要領地理歴史科編「2内容とその取扱い」「イ世界戦争と平和」の「帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる」ことを受けて設定した。

徴兵制を実施し近代的軍隊が編制されたことで、戦争を通じて植民地が形成された一方、軍隊が地域社会との結びつきを強め、総力戦体制が築かれた過程を理解させる。

②単元の目標

I 明治期以来の帝国形成過程を理解する(関心・意欲・態度)

II 徴兵制度と兵営生活を学び、軍隊と地域社会の関係を理解する
(思考・判断、知識・理解)

III 戦争ポスターを分析し、政治宣伝のねらいを考える(資料活用の技能・表現)

(3) 博物館との関連

①活用方法

「来館型活用」と「非来館型活用」の併用

②活用資料

貸出教材「戦争ポスター」

①



②



③



④



⑤



①「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」(No.5)

②「祝へシンガポール陥落を！」(No.8)

③「陸軍少年飛行兵」(No.15)

④「陸軍特別幹部候補生」(No.16)

⑤「武装台湾」(No.18)

(4) 指導観

本校グローバル・スタディコースは、国内外の大学入試に対応できる英語力の育成と、留学や各種実習など体験型学びの実践を行うコースである。実践的な英語力と論理的な思考力や国際理解力を身につけることを目指しており、海外大学への進学を目指す生徒も多い。毎年12月に実施している校外実習の機会を利用し、世界史学習において近現代の日本史を扱い、国際関係や異文化理解を主題とし、英語を活用した演習も取り入れた授業を立案した。

3. 指導計画 (5時間扱い)

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
事前学習	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・徴兵制度について学ぶ ワークシートを用いて、徴兵検査と徴兵忌避について学ぶ ・満州移民や学徒出陣を知る ・貸出教材「戦争ポスター」 5班に分かれ、戦争ポスターを見て話し合った内容や気付いたことをまとめる。1つのポスターにつき5分程度の時間をとり、順次次の班に回す	□在学猶予や満州移民を読み取らせる □色彩や規定などを読み取らせ、誰が誰に向けてメッセージを送ったかを理解する ■兵士募集・資金調達・銃後の守りという戦争ポスターの意図を理解できたか(知・理)
校外実習	3時間	展示室見学 ①11:10～11:30 ガイダンス ②11:30～12:30 自由見学 ③13:15～13:45 第4展示室見学 ④13:45～14:30 第6展示室見学 グループ学習 14:30～15:15 英語キャプションを考える	□展示品の持つ意味を理解すると同時に、時代の特徴を俯瞰させる ■第6展示室を見学するにあたって兵士の誕生に対する興味と関心をもてたか(関) ■グループでの話し合いを通じて、表現方法を工夫し、広げることができたか(技)
事後学習	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ポツダム宣言の現代語訳をする ・NHK 戦争証言アーカイブス 佐倉連隊の兵士の証言を聞く	□校外研修と資料読解を結びつける ■資料を適切に読み取ることができたか(技・表) ■兵士自身の証言と期待された兵士像を比較できたか(思・判)

4. 実践の概要

(1) 事前学習

①徴兵制度について学ぶ

第6展示室は近代日本の歩みを学ぶところである。海外植民地の形成と、その原動力となった近代的軍隊の編制を理解するため、「兵士になるとはどういうことか」を学ぶ必要がある。したがって、まず徴兵制度の概要を学び、徴兵検査は軍隊にとって国民と接点をも

つ重要な機会であったことを理解させた⁽¹⁾。次に、徴兵忌避の対象となった理由について考察し、1930年代の日本について理解することに努めた。在学猶予の項目では、大学生が多くを占めていたことや、1942年に大きく対象者数が減少した理由は、学徒出陣が決まったからだということを指摘した。その後、神宮外苑で行われた壮行会の様子を写した映像資料を視聴した⁽²⁾。また、海外在住とは移民を指し、ブラジルやハワイ・満州への移民が相当数おり、とりわけ満州移民は、海外植民地に日本人が一定数占めることを意味し、軍隊も移民を黙認していたことが挙げられる。

図 徴集延期者の理由・人数

理由／年	1938	1939	1940	1941	1942
徴兵検査対象者	805、686	823、423	955、898	958、945	885、456
生活苦	142	63	25	9	7
在学猶予	96、340	104、760	124、225	140、926	97、214
海外在住(移民)	60、506	64、663	69、085	72、022	76、279
逃亡等	9、978	9、675	9、642	9、400	8、778
服役中	67	73	42	60	54
裁判中	3、140	3、171	2、794	2、958	3、080
疫病等で未定	6、647	7、273	8、790	9、660	10、911
未受験	1、089	960	1、312	2、090	929

出典 一ノ瀬俊也『皇軍兵士の日常生活』（講談社、2009年、p.35）を元に作成。表現は改めた。

その他、軍隊に入るということで、各地から集まった兵士が「米」を食べるという共通の体験をしたことや、千人針や幟に注目させ、兵士の出征が地域全体を巻き込む動きであったことなどに言及した。

②戦争ポスターに学ぶ

国立歴史民俗博物館の貸出教材「戦争ポスター」を用いて、グループ別に内容を把握し、特徴をまとめさせた。5種類のポスターを回覧して、お互いに意見を出し合って特徴を記録させた。以下は、ポスターの内容と生徒の感想である。



1 「陸軍少年飛行兵」昭和 18（1943）年

・少年憧れの飛行機をかつこよく描く。乗りたいと思わせる・飛行機を操縦できる技術が身に付けられる

2 「陸軍特別幹部候補生」昭和 18（1943）年

・高い地位を約束しているかに見せかけて若者達の心を煽ってる

・かつこいい。15歳以上20歳以下の子を育てている

3 「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」（太平洋戦争期）

- ・目はかすかに潤っていて未来を見据えた気がする ・絵がキレイ
- ・少年でも立派に兵をやりとげることができることを暗示 ・顔がはっきりみえる

4 「武装台湾」(昭和 19 年か)

- ・台湾へ進出していき、台湾の国民すべてが仲間に加わり新兵として戦っていると記述し、台湾の国民に訴えかけている。

5 「祝へシンガポール陥落を！ 買へ戦時貯蓄報国債券を！」昭和 17 (1942) 年か

- ・ポスターの中心に、日本の日の丸をおくことで、日本国民に対して国を上げて共に戦おうという意味が込められている気がする・日本の国旗が嬉しさと優越感をあらわしている。国民にやる気を持たせている。

次に米国の戦争ポスターを紹介して、日本のポスターと比較しつつ、英語でのキャプション作成に備えさせた。用いたポスターは以下の通りである。三つに大別して提示した。

① 兵士の募集



第一次世界大戦の英雄キッチナー (英陸軍大臣) アンクル・サムを用いたアメリカ軍の募兵ポスター



鉄道駅に掲示された戦争ポスター

<https://www.bbc.com/news/magazine-28642846>

② 戦意の高揚



真珠湾攻撃を忘れるな



日本人への憎悪

③ 女性の動員



リベット打ちのロージー



我々にはできる！



ウィメンズ・マーチの抗議活動

戦争ポスターは、兵士の募集・資金の調達・銃後の守りという目的をもつ。銃後の守りとは、戦地に赴く兵士を送り出した後の地域や家庭の秩序維持を指す。政府や社会が女性に対してどのような役割を期待していたかを知ることができる。国立歴史民俗博物館に展示されているポスターは、日本のポスターの多くがそうであるように、家庭を守る貞淑な女性というイメージを強調している。それに対して米国のポスターは、力強く社会に貢献するという印象をもっている。儒教的な価値観に基づく女性像と対照的な点に留意させた。「我々にはできる！」ポスターは、トランプ大統領就任式の日（2017年1月20日）に行われた抗議デモにおいて使われたこともあわせて指摘した。

（2）校外実習

①展示室で学ぶ

ガイダンスと自由見学を経て、第6展示室で45分の授業を行った。日清戦争・日露戦争から第一次世界大戦までの明治・大正期は、「勝ち戦」が続き、台湾・朝鮮・南洋諸島・満州という海外植民地が形成されたことを概観した。佐倉で編成された陸軍歩兵第57連隊が、北満州の国境地帯を警備するために派遣された展示を見学した。続いて、帝国形成の原動力となった近代的軍隊について学んだ。兵営の生活では豊かな食事に注目させ、戦争末期を除けば充実した食事が用意されたことや、各地から集まった兵士が米を食べるといった共通の体験をしたことなどを確認した。千人針を通じて、「虎は千里行って千里帰る」という諺や「5銭」「10銭」を縫い付けて縁起を担いだこと、兵士の氏名を記した幟を見て、地域全体が出征兵士を送り出したことなどを理解させた。

②英語キャプションを考える

展示室での講義を経て、第2研修室にてグループ学習を行った。事前学習で学んだ戦争ポスターを用いて、英語でのキャプションを考えさせた。



見学後の学習では、事前学習で用いたポスターを3種類に絞り、英語でキャプション（タイトル）を考えさせた。5・6人のグループで、ポスターを回覧しながら協力してアイデアを出させ、全体の前で発表させた。生徒から出された案は以下の通りである。

「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」（太平洋戦争期）

C'mon chubby Boys! Give your life for the army Japan Want You!

It's time to fight! We need you for country.

Save your loved country.

「武装台湾」（昭和 19 年か）

Armament Taiwan It's time to fight against American.
Fight for Japan. Defeat Americans with us. Make Taiwan Great Again!

「祝へシンガポール陥落を！ 買へ戦時貯蓄報国債券を！」昭和 17（1942）年か

We got Singapore.buy (by) the bonds.
To buy government bond is to get a part of Singapore.
Cooperate for the war 、 Singapore is under control!
Buy the base bond to support your own country.
Buy more tickets to defeat Singapore! Buy one 、 get a free country.

生徒のアイデアは、口語的表現や直訳に近いものが多いように思われる。優秀なキャプションを生徒に選ばせて、内容理解を深めさせた。

（3）事後学習

①ポツダム宣言を読む

ポツダム宣言は、展示室で新聞記事を用いて説明したが、あらためて第 6 項を現代語訳させることで意味を把握させた。日本が連合国から糾弾されたのは、「世界征服」を企んだ勢力の排除にあることを確認した。第 6 展示室で、日本が明治以来、勝ち戦を続け、海外植民地を拡大してきた歴史を学んだが、視点を変えると、「世界征服」を目指しているととらえられたことを指摘した。異文化理解をねらいとする本単元で、時代を俯瞰しつつ資料の読み取りを行う学習は、大変重要である。今後もこの手法を精査して高めていきたい。

②戦争証言を聞く

佐倉連隊（陸軍歩兵第 57 連隊）は満州に派遣された後、戦争末期（昭和 19 年）に南方戦線へ移動させられた。NHK 戦争証言アーカイブスでは、佐倉連隊（陸軍歩兵第 221 連隊）の兵士による証言記録を公開している⁽³⁾。生々しい証言を聞き、地域を挙げて送り出された兵士が、戦場でどのような苦難を体験したか。その末路をきちんと学ぶ必要がある。

5. 成果と課題

（1）成果

・戦争ポスターの利用

戦争が終わると公文書は焼却処分を受けたため、戦争ポスターの多くは残っていない。個人が所有するものや、各地の資料館・博物館が個別に保有している状況である。政治的な問題になるのを懸念し、公になっていない資料も多い。したがって、当館の戦争ポスターを教材として活用する意義は大きい。カラー印刷で公共の場に掲示され、政府・軍隊の意図を明確に示すものとして資料の利用価値は高い。

・戦争と平和の関係を問いかける

戦争が「死」の問題に直面させたことは、多くの生徒が感じ取ったようである。相手を理解する努力を重ねて、できる限りこうした惨禍を避けなければならない。ワークシート

を活用することで、平和に対する自らの考えを文章にまとめることができた。

・異文化間の比較

日清戦争から第一次世界大戦まで、日本は戦争に負けたという経験をせずに、太平洋戦争を迎えた。なぜあのような無謀な戦争をしたのか、という問いは、こうした背景を理解した上で、考えなければならない。展示室での見学を通じて、近代日本の歩みを俯瞰することができる。一方で、ポツダム宣言が日本の「世界征服」を糾弾したという事実は、自らが世界からどのような眼で見られたかという相対的な視点を学ぶことができる。さらに、米国のポスターを読み解くことで、比較の視点を習得することをねらいとした。銃後の守りを強調するポスターを通じて、女性の役割に対する考え方の違いが鮮明になった。

(2) 課題

・戦争ポスターの利用

戦争ポスターは政府の宣伝活動の一環として制作され、国債募集など資金調達を目的に発行されたものが最も多い。貸出教材には、兵士募集や銃後の守りを強調するポスターは多いものの、国債募集のポスターは多くない。長野県阿智村では実物大の複製ポスターを教材として貸し出している。デザインや大きさ・色合いなどもメッセージを伝える重要な要素であり、教材として戦争ポスターを用いるには、多様なポスターが必要である。

英語のキャプションを考えさせて、戦争ポスターに対する理解を深めさせようと努めた。しかし、店舗でのセールスに着想を得た”buy one 、 get a free country”はやや違和感を覚えた。戦意高揚を意図したプロパガンダという性格をよく理解させる必要を感じた。

・戦争と平和の関係を問いかける

戦争の実態から平和の必要を導く問いかけが、深みに欠けたのではないかと思う。地域を挙げて送り出された兵士たちは、その後戦場でどのような事態に直面したのか。第6展示室で見学した第57連隊は、昭和19年秋、満州からフィリピン・レイテ島に動員された。世論に翻弄され、明確な方針を欠く軍隊と政治の指導者の前に、兵士は多くの辛酸を舐めさせられた⁽⁴⁾。時代背景を掴んだ上で、NHK戦争証言アーカイブスの特集番組や戦争証言を学ぶことで、その理解はさらに深まるのではないかと思われる。

・異文化間の比較

英語学習を重視し、留学や体験学習をカリキュラムに含むコースの生徒を引率したことから、日本の歴史と文化を他者の視点から相対化することが必要であった。英語のキャプションを考えさせたことで、主体的に学ぶ機会を作ることができた一方で、表現の比較を踏み込んで考察することはできなかった。

2018/12/12

世界史 A 演習

歴史民俗博物館 校外研修ワークシート③

GS2 年 1 組 番

氏名

戦争ポスターのキャプションを考える

課題 各ポスターのキャプション（説明文）とその理由を考えよう。キャプションは英語で考えよう

「陸軍少年戦車兵・通信兵・砲兵生徒募集」（太平洋戦争期）

「武装台湾」（昭和 19 年か）

「祝へシンガポール陥落を！ 買へ戦時貯蓄報国債券を！」昭和 17（1942）年か

研修レポート

展示見学の記録

戦争と平和について考えたことをまとめる

<生徒の感想>

*今回、校外学習として訪ねることができた佐倉にある国立歴史民俗博物館は、僕が今まで立ち止まったことがある博物館と違って、展示品があったり、元々、日本軍の駐屯地の一つでもあったことから、軍の学校の当時の暮らしの様子や、食事、日常的にあった先輩からの暴力など、頭では戦争はとてもむごいものとわかってはいたが、より戦争というものを理解できたと思う。特に三八銃をもつことができるコーナーがあり、一番心に刺さった。自分が予想をしていたよりもはるかに重く、命を背負うという重さを知った。今回の体験を通して、自分は戦争がどんなにむごいものかを知った。これからも二度と繰り返してはいけなと感じた。自分が力を入れている英語を用いて、世界に、非核・非暴力、言論での解決を発信していきたいと思う。

*戦争の展示コーナーで、被爆したお母さんとその子どもが焼けこげて倒れている写真を見ました。火に近づいただけでも熱くてとっさに火から遠ざかったり、少しの火でも火傷して強い火を逃げる間もなく受けたということに、どれだけつらい思いをしながら亡くなって行ったのか想像するだけでもとても胸が痛くなります。そして、大戦が終わった日本に生まれたことを幸せに思います。でも、他の国々では現在も紛争が続いていて、平和になったとは言えません。この問題は、日本は関係ないといって済むことではないので、私1人が何かしても変わることはないかもしれませんが、日本がどうにか助けてあげられるといいなと思います。

*戦争をしている時、人々は国のために戦うことに誇りをもっているが、国のためだからといって人を殺すための訓練や兵器を積極的に行うのは少し違うのではないかと思う。戦争で勝つことができても、本当の平和は訪れないと私は考える。力を使わずに問題を解決し、相互に納得できたとき、平和といえると思う。

*私達高校生は「戦争」というものを経験したことがありません。歴博の第6展示室には日本の「戦争」についてのものがたくさん置いてありました。そこで私が感じたことは、人間の命の尊さです。展示室には日本兵がかついでいた重さ約30kgのリュックや約5kgの鉄砲、2年間訓練し衣食住をした兵舎など生々しく再現、または実際のものが展示されていました。さらに、戦争を経験した元兵士の肉声なども音声で聞くことができました。今では考えられないほど、人間を物のように扱い、若者は人を射殺する練習をさせられ、激しい上下関係を受けた人達の主張のようなものが示されていました。私は「戦争」にも「平和」にも限りはないと思いました。これからの未来、何が「戦争」で何が「平和」なのかを正しく決めるべきだと私は思います。

*日本は中国の満州や台湾などを植民地にし、住民を殺したり、ひどいことをたくさんしてきた。そこから、大きな戦争が起こり、日本の国民も多く亡くなっていった。1つの戦争が起こるだけで多くの命がなくなる。それはとても無駄なことだと思う。今も海を越えたところで戦争が起こってたくさんの方が亡くなっている。今すぐ、戦争を終わらせることは難しいと思うけれど、いつかは地球から戦争が消えてほしいと思う。

*国や国民のために戦争だけど、実際は何万人もの人が戦争で兵士として亡くなり、敵国の攻撃により一般市民も亡くなっている。国、国民のためとはいえ、国民が死んでは元も子もないなと考えた。人が死ぬくらいなら戦争なんかしない方が両国のためだと思った。

*人間が平和を求めるのならば、戦争は放棄すべきだと考える。今までに人間は数え切れない程の戦争を繰り返したが、それぞれの戦後にはとても悪い結果が待っているのもあって、決して平和ではない。解決したい事柄などがあるのならば、戦争を始める前に落ち着いて、協定や条約、会談などを設けて解決するべきであると考えている。

歴史民俗博物館 校外研修ワークシート④

GS2 年 1 組 番

氏名

ポツダム宣言

六、吾等ハ無責任ナル軍国主義カ世界ヨリ駆逐セラルルニ至ル迄ハ平和、安全及正義ノ新秩序カ生シ得サルコトヲ主張スルモノナルヲ以テ日本国国民ヲ欺瞞シ之ヲシテ世界征服ノ挙ニ出ツルノ過誤ヲ犯サシメタル者ノ権力及勢力ハ永久ニ除去セラレサルヘカラス <http://www.ndl.go.jp/constitution/etc/j06.html> (国立国会図書館)

課題 上記の文章を現代語に訳しなさい。

兵士の証言

NHK「戦争証言アーカイブス」http://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/movie.cgi?das_id=D0001210008_00000
西部ニューギニア 見捨てられた戦場～千葉県・佐倉歩兵第 221 連隊～

課題 内容をまとめなさい。

注

(1)徴兵制度については、以下の文献を参照した。

①加藤陽子『徴兵制と近代日本』吉川弘文館、1996年。

②一ノ瀬俊也『皇軍兵士の日常生活』講談社、2009年。

(2)NHK 戦争証言アーカイブス「学徒出陣」(『日本ニュース』第 177 号、1943 年 10 月 27 日公開)

http://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/jpnews/movie.cgi?das_id=D0001300562_00000&seg_number=001

(3)NHK 戦争証言アーカイブス「西部ニューギニア 見捨てられた戦場～千葉県・佐倉歩兵第 221 連隊～」2007 年 8 月 12 日放送

http://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/movie.cgi?das_id=D0001210008_00000

(4)NHK「フィリピン・レイテ島 誤報が生んだ決戦～陸軍第 1 師団～」2008 年 2 月 28 日放送

http://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/movie.cgi?das_id=D0001210016_00000